親子の学び応援講座（伊達地区 PTA 連絡協議会）



１１月７日（土）に、伊達ふるさと会館ＭＤＤホールを会場に、親子の学び応援講座を開催しました。親子のかかわりやふるさとを思う気持ちについて、親子そろって考える機会として、歌をとおして地域にエールを送り続けているシンガーソングライターのＭＡＮＡＭＩさんより、「福島で歌い続ける意味」をテーマにご講演いただきました。

３回上京してやっと気づいた



１０代のころ、福島が好きではありませんでした。ずっと「早く福島を出たい！」と思っていました。私は、２０１１年の３月に福島市内の高校を卒業し、歌手を目指して東京に行きました。でも、東京での活動は思うようにいかず、福島に帰ってきて路上で歌うようになりました。ただ、「なんで私は被災した人たちから募金を集めてるんだろう？」と思うようになり、再び上京しました。決意して向かった東京でしたが、やはり自分にできることを見つけられず音楽の道からはなれ、レジ打ちなどをしながら生活していました。

失意の中、２０１４年に福島に帰ってきて、「いつも自分のとなりにあった飯坂電車の歌をつくってみよう」と何気なく書いた曲が、飯坂線の公式応援ソングとして採用され、そこからたくさんの企業や自治体からテーマソング作成の依頼が届くようになりました。福島に帰ってきて、つくってきた歌のおかげで、今もこうしてステージに立てる自分がいます。私が福島で歌い続ける意味はここにあるのかなと思っています。私は３回上京して、やっと「都会にはないものが、このまちにはたくさんある」ことに気がつきました。あの頃の私のように「早く福島を出たい！」と思っているみなさんには、「大切なのは、自分が『どこに居るか』ではなく、そこで『何をするか』なんだよ。」と伝えてあげたいです。

今「好きだ」と思っているものを大切に



夢が見つからない人もいると思います。私がそうだったように、何が「夢の種」になるかはだれにもわかりません。今「好きだ」と思っていることがいつか夢になって、花を咲かせるかもしれません。保護者のみなさんには、お子さんのよさを見つけて、応援してあげてほしいと思います。私が音楽の道に向かうのを家族の中でいちばん強く反対したのは母でした。その母が、あるオーディションの客席に来ていたことがありました。オーディションの後、私の歌を初めて聞いた母が寄ってきて、「あんたなら、大丈夫。うまくはないけど、０（ゼロ）ではないと思うよ。」と言ってファン第１号になってくれました。子供は、味方になってくれる人がいるとがんばれます。私があきらめかけていても、母は「大丈夫」って私を信じ続けてくれました。歌い始めてから１８年経った今でも夢を追いかけることができるのは、いつも味方でいてくれる母のおかげです。

参加者の感想



- 「好き」を夢にしていこうと思いました。（小学生）
- あきらめずに夢を追い続けたいなと思いました。（中学生）
- 親として、子供を信じて、いちばんの応援団でいたいと思いました。（保護者）
- 子供が好きなことをしはじめたら、親として、水を注ぎ続けて応援したいと思います。（保護者）
- 歌もトークも素晴らしかったです。来年もぜひお願いしたいです。（保護者）
- 保護者がいちばんの応援者であるなら、教職員はその次の応援者になりたいと思いました。（教職員）

講演の中に、「（ネガティブな気持ちになって）『どうして私にはできないんだろう？』と落ち込んでしまう日が多いです。でも、ステージに立つとスイッチが入って前向きな気持ちになれるのは、みなさんが私の方を向いてくださっているから。」というお話がありました。ＭＡＮＡＭＩさんの歌やお話から、まわりの大人たちの励ましの言葉やあたたかい眼差しが、その子を支える力になっていることをあらためて感じることができました。